

## ＜コラム⑨＞完了事業の効果

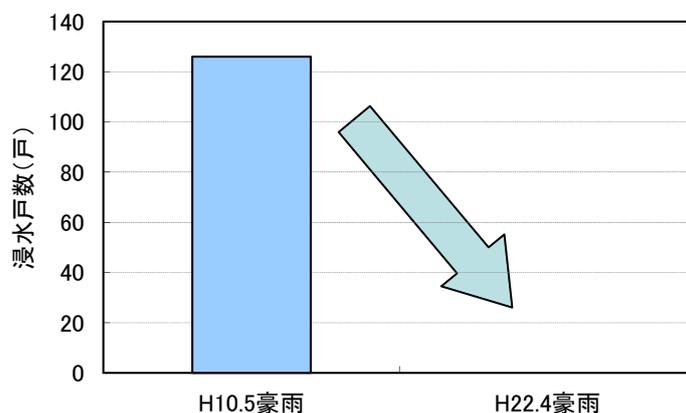
### ～桑野川における排水ポンプ場（排水機場）の整備効果について～

桑野川における戦後最大規模の洪水である平成11年6月29日の洪水では、桑野川左岸の阿南市宝田町から長生町で約240haが浸水し、床上浸水22戸、床下浸水232戸が浸水するなど多大な被害が発生しました。

この多大な洪水被害を鑑み、浸水被害を軽減させることを目的とした「桑野川床上浸水対策特別緊急事業（以下、床上事業）」を平成14年度より行い平成20年度に完了しました。床上事業では、桑野川の増水により排水不良に陥っている川原地点及び大津田川・桑野川の合流点に1カ所ずつ排水ポンプ場（川原排水機場及び大津田排水機場）を設置するとともに、阿南市宝田町から長生町までの約3.2kmの引堤工事を行いました。

事業完了後最大規模の洪水である平成22年4月豪雨では、事業実施前に発生した同等規模の雨量・流量である平成10年5月豪雨と比べると、浸水戸数が0戸に減少しました。

また、大原観測所の水位は平成10年5月豪雨と比べて約60cm低くなりました。



排水ポンプ場（排水機場）の整備効果

### 実績の雨量及び水位・流量の比較

年月	発生原因	1日雨量 (mm)	大原水位流量観測所		実績浸水戸数 (戸)
			水位 (m)	流量 (m <sup>3</sup> /s)	
平成10年5月	前線	287	5.88	約670	126
平成22年4月	低気圧	257	5.24	約630	0